我他彼此〔がたびし〕について

令和五年七月二十五日　於加茂法話会

夏は暑いですねー。打ち水をする。家には、風鈴をつるし、庭には、朝顔、ほうずき、ひまわり、畑には、きゅうり、トマト、なす、西瓜など、見ると風流だなあと思います。

近頃、他人を踏み台にして自分さえ良ければそれで良い。仏様の世界から見てみると「世の末」救いがたい世になってきたような気がします。

子どもの頃、障子戸を開けるときに、「がたぴし」させるな、静かに開けなさい。よく言われた。

①大日經住心品疏私記（曇寂撰）一報恩（ほうおん）。二酬怨（しゅうおん・長い間消えない恨み）

②資行鈔　照遠撰）慢心（まんしん）

「我他彼此」は漢字それぞれが持つ意味は、「我＝己」「他＝他人」「彼＝かれ」「此＝これ」。それぞれが対立したり衝突したりすることで、闘争や葛藤が絶えないことを意味します。

水を使う、温泉で水をどんどん使う、水道の水はタダではない。けれど、どんどん使う。他人が税を払った水で私には関係ないといって、ジャンジャン使う、少々の水ですむところを、洗面器で何倍も使って流している、それでは、佛法の日暮（ひぐらし）ではない。道元禅師は、柄杓の水を全部使わずにもとに戻したという。これを「杓底の残水・しゃくていのざんすい」といいます。私たちのお寺で水に困らないのは、道元様の水を粗末にしなかった余徳であると私は思っています。

水を使う、水の恩、障子戸を開けるのも、「我他彼此」させないようにする。

合掌するにしても、お願い事する時にだけ、合掌する。

仏様、神様に合掌すれば、信仰となる。父母に合掌すれば、孝道となる。

互いに合掌すれば和合となり、信頼が生まれる。目上の人に合掌すれば尊敬になる。無私に合掌すれば慈悲となる。自分に合掌すれは人造り、人間形成の道となる。

「自分さえ良ければ、他人はどうでもよい」「ひとのものを盗む」悪いことは知っているが、恩を忘れ、自己を見失い、我見に振り回されて、犯罪が多くなって来ているのか、犯罪のありようが変わって来ているのか、「自分を見失しなわない様に」しなければならない。

姿勢を整えて、呼吸を整えて、一時停止する、すると「こころ」が落ち着いてくる。

濁った「こころ」が澄んでくる。

人の垢を洗い流し、身を削り、文句を言わず、人を喜ばせ、流れてゆく小さな石鹸。

正壽寺住職　呉　定明合掌